



2016年3月期 第2四半期決算説明会

2015年11月18日

JASDAQ: 6467

株式会社 ニチダイ
NICHIDAI CORPORATION

<http://www.nichidai.jp/>

ネットシェイプ事業

単独

ニチダイ (ND)

◆主に自動車のエンジン・トランスミッション・駆動系部品などの成形に使われる**精密鍛造金型**。

◆切削なしに部品成形を行う**ネットシェイプ**がコア技術。

◆自動車部品、スクロール鍛造品などの**精密鍛造品の量産**。



精密鍛造金型



スクロール鍛造品

アッセンブリ事業

◆ディーゼルエンジン用 **VGターボチャージャー部品のアッセンブリ(組立)**。



VGターボチャージャー部品

フィルタ事業

ニチダイフィルタ (NFC)

◆食品、医薬品、原子力、航空宇宙、ヘルスケア製品など、多様な産業分野で使われる**積層焼結金網フィルター**。



積層焼結金網フィルター

海外拠点

ニチダイ アジア (NDA)

◆タイに立地する**金型販売拠点**。

ニチダイ USA (NUC)

◆米国オハイオ州にある**金型販売拠点**。

ニチダイタイランド (NDT)

◆タイ・バンコク近郊にある海外子会社。ネットシェイプ事業、アッセンブリ事業双方におけるアジアの戦略拠点。

【ネットシェイプ事業】

◆2012年スクロール鍛造品の生産、2013年金型の生産を開始。

【アッセンブリ事業】

◆ターボチャージャー部品の組立を行う。

タイ・シンタート・メッシュ (TSM)



◆タイ北部・チェンマイ近郊に立地する**フィルターの生産拠点**。

I .16/3期上半期実績

単位: 百万円

	15/3 上半期実績 14/4-14/9	16/3 上半期計画 15/4-15/9	16/3 上半期実績 15/4-15/9	伸び率
売上高	7,282	7,500	7,166	△ 1.6%
売上総利益	1,671	1,630	1,473	△ 11.9%
販売管理費	1,024	1,010	1,031	0.7%
営業利益	646	620	441	△ 31.8%
営業外損益	△ 9	25	15	—
経常利益	656	595	426	△ 35.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	388	390	285	△ 26.5%

* 百万円未満切り捨て。

I .16/3期上半期実績 — 四半期別業績推移 —

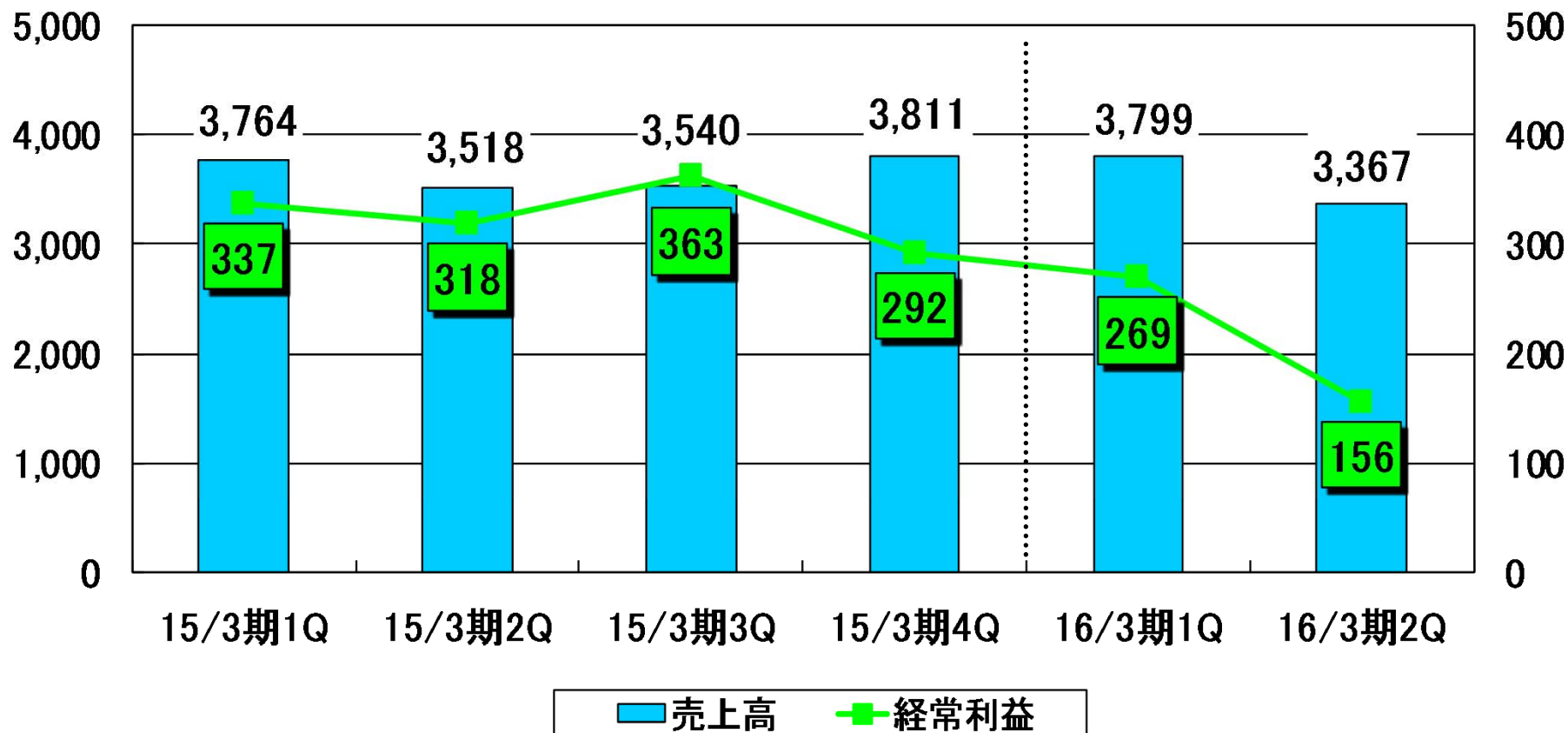
▶ ネットシェイプ事業の金型部門及びアッセンブリ事業の不振により収益性が低下。

売上高(左軸)

単位:百万円

経常利益(右軸)

単位:百万円



I .16/3期上半期実績 — 事業別売上高の状況 —

単位:百万円

事業	15/3 上半期実績 14/4-14/9	16/3 上半期実績 15/4-15/9	伸び率
ネットシェイプ	3,910	3,649	△ 6.7%
アッセンブリ	2,438	2,601	6.7%
フィルタ	934	916	△ 1.9%
連結計	7,282	7,166	△ 1.6%

▶ 金型部門:国内向けが減少。
国内市場にばらつきが生じたことにより、売上高が減少。
精密鍛造品部門:ほぼ前年と同水準で推移。

▶ 海外子会社連結時の為替レート変動に伴う影響により売上高増加。

▶ 国内向けは増加したものの、海外向けが減少。

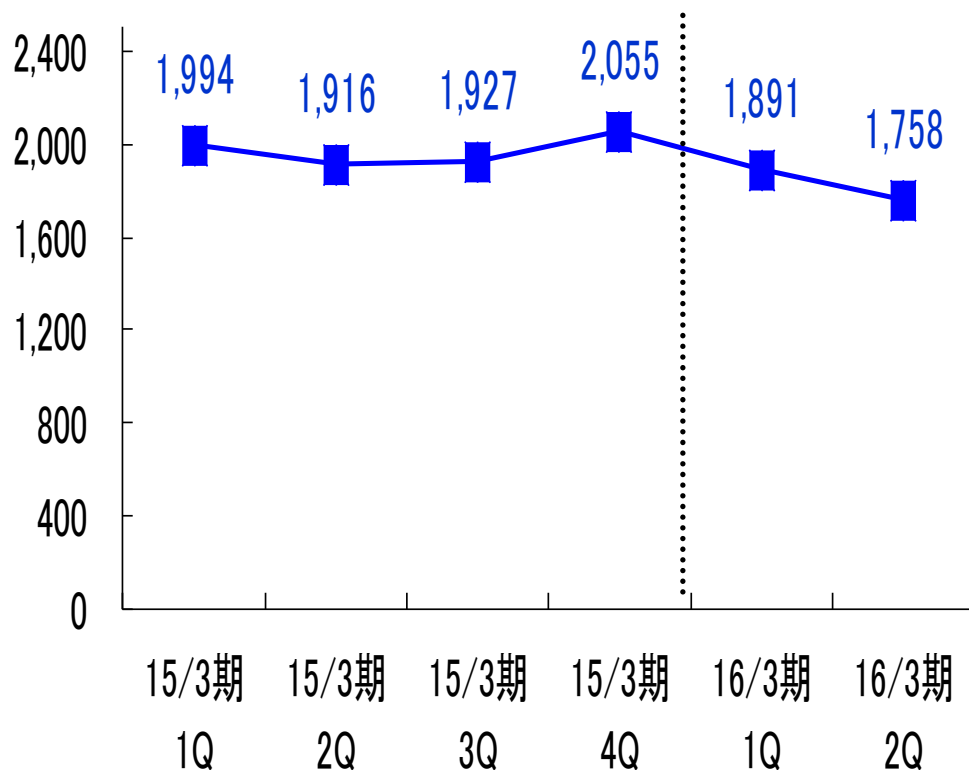
* 百万円未満切り捨て。

I .16/3期上半期実績 — ネットシェイプ事業概況 —

- ▶ **金型部門**: (海外)アジア向けの売上高が増加。
(国内)国内市場にばらつきが生じたことにより、売上高が減少。
- ▶ **精密鍛造品部門**: 国内は停滞したものの、海外生産が増加し、
ほぼ前年並みで推移。

ネットシェイプ事業売上高推移

単位: 百万円



国内外別売上高推移

単位: 百万円

	14/9 実績	15/9 実績	伸び率
金型(国内)	2,405	2,011	△ 16.4%
金型(海外)	612	738	20.7%
金型計	3,018	2,750	△ 8.9%
精鍛(国内)	587	458	△ 22.0%
精鍛(海外)	304	439	44.4%
精鍛計	892	898	0.7%
ネットシェイプ計	3,910	3,649	△ 6.7%

* 百万円未満切り捨て。

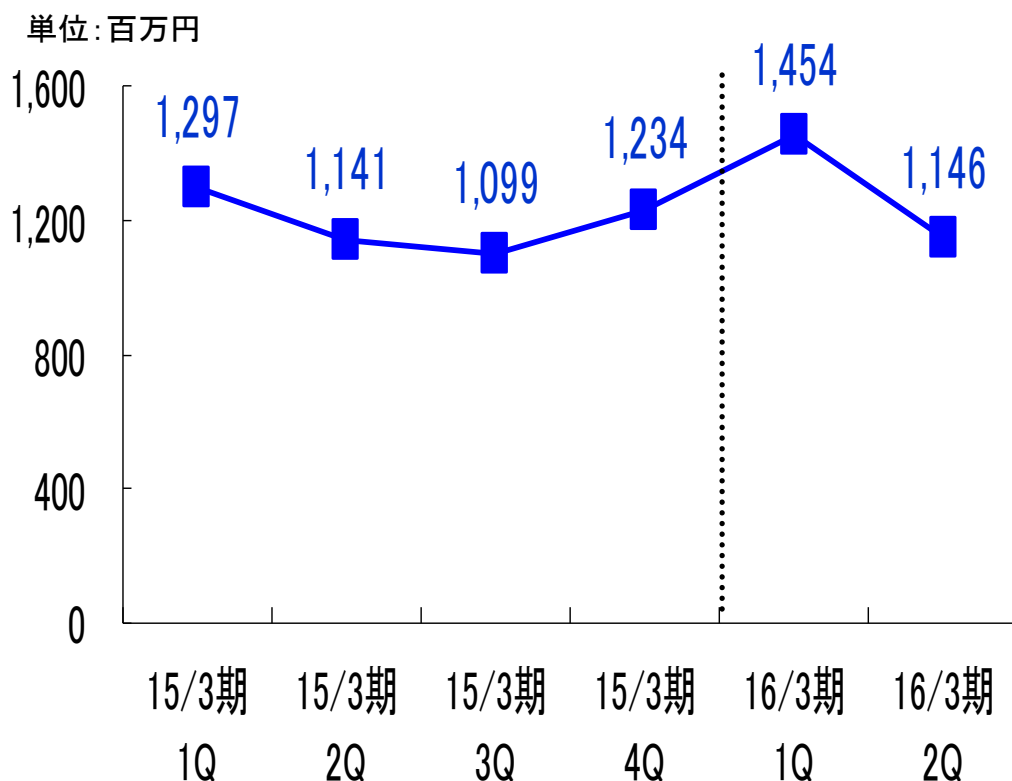
* 百万円未満切り捨て。7

I .16/3期上半期実績 — アッセンブリ事業概況 —

- ▶ 海外子会社連結時の為替レート変動に伴う影響により海外売上高が増加。
- ▶ モデルチェンジにより生産減を予想していたVGターボチャージャー部品の機種数の減少幅が想定以上となり、収益性が悪化。

アッセンブリ事業売上高推移

国内外別売上高推移



単位: 百万円

	14/9 実績	15/9 実績	伸び率
国内	1,129	1,119	△ 0.9%
海外	1,308	1,481	13.2%
総合計	2,438	2,601	6.7%

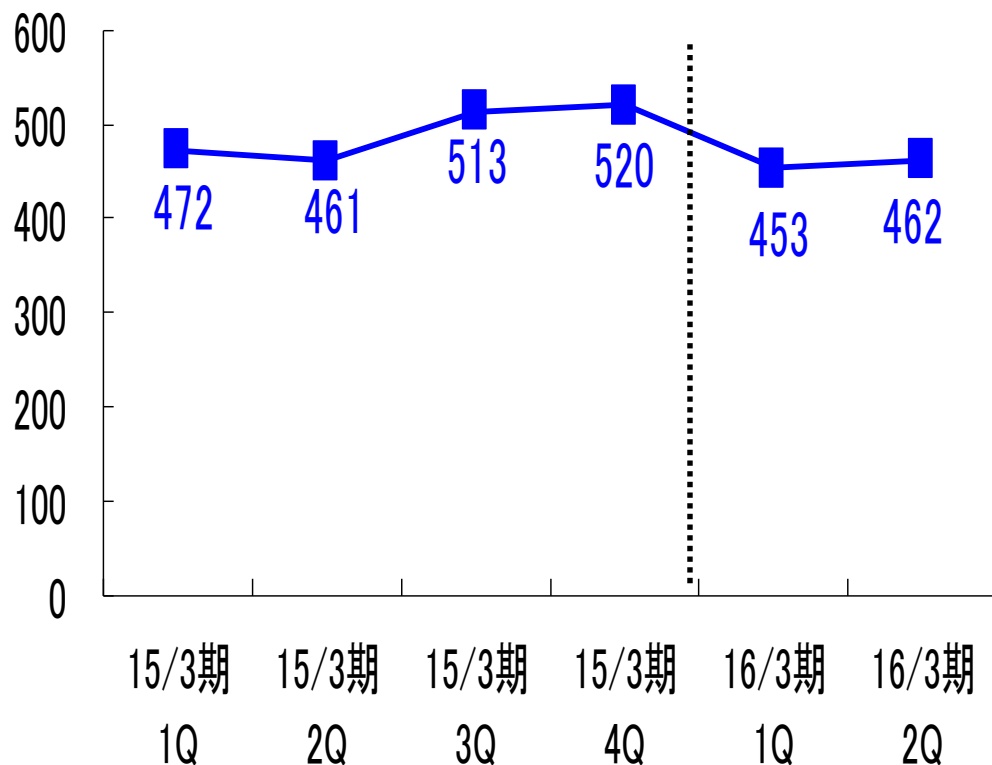
* 百万円未満切り捨て。

I .16/3期上半期実績 — フィルタ事業概況 —

- ▶ 前年好調であった輸出用フィルターが減少し、海外売上高が減少。
- ▶ 国内向けでは大型海水ストレーナーが増加。

フィルタ事業売上高推移

単位:百万円



国内外別売上高推移

単位:百万円

	14/9 実績	15/9 実績	伸び率
国内	555	658	18.6%
海外	378	257	△ 31.9%
総合計	934	916	△ 1.9%

* 百万円未満切り捨て。

* 百万円未満切り捨て。9

単位：百万円

	14/9			15/9		
	売上高	経常利益	利益率	売上高	経常利益	利益率
ネットシェイブ	3,910	301	7.7%	3,649	150	4.1%
アッセンブリ	2,438	165	6.8%	2,601	140	5.4%
フィルタ	934	188	20.2%	916	135	14.7%
連結計	7,282	656	9.0%	7,166	426	5.9%

➤ 金型部門の売上高が減少したことにより収益性が悪化。

➤ 海外子会社連結時の為替レート変動の影響により売上高が増加。

➤ 売上高減少および固定費用増加による。

単位:百万円

	14/9 実績	比率	15/9 実績	比率
売上高	7,282	100.0%	7,166	100.0%
材料費	2,450	33.6%	2,563	35.8%
製品仕入	358	4.9%	344	4.8%
外注加工費	630	8.7%	680	9.5%
補助材料費	252	3.5%	239	3.3%
人件費	1,253	17.2%	1,254	17.5%
減価償却費	351	4.8%	401	5.6%
在庫増減	57	0.8%	202	2.8%
その他	373	5.1%	411	5.7%
売上原価	5,611	77.0%	5,693	79.4%
売上総利益	1,671	23.0%	1,473	20.6%

* 百万円未満切り捨て。

単位:百万円

	14/9 実績	比率	15/9 実績	比率
売上高	7,282	100.0%	7,166	100.0%
荷造・運賃	88	1.2%	77	1.1%
旅費交通費	60	0.8%	61	0.9%
人件費	511	7.0%	509	7.1%
減価償却費	53	0.7%	73	1.0%
賃借料	29	0.4%	31	0.4%
その他	281	3.9%	278	3.9%
販売・管理費	1,024	14.1%	1,031	14.4%

* 百万円未満切り捨て。

I .16/3期上半期実績 — B/S:資産 —

単位:百万円

	14/9 実績	15/3 実績	15/9 実績	増減
現金預金	2,140	2,424	2,023	△ 400
受取手形	776	785	637	△ 148
売掛金	2,843	2,892	2,873	△ 18
たな卸資産	2,180	2,556	2,649	93
その他	237	143	197	54
貸倒引当金	△ 4	△ 1	△ 1	0
流動資産計	8,175	8,800	8,380	△ 420
有形固定資産	6,787	7,188	7,202	14
無形固定資産	122	111	103	△ 7
投資その他の資産	231	231	222	△ 8
固定資産計	7,141	7,531	7,528	△ 2
資産合計	15,316	16,331	15,908	△ 422

* 百万円未満切り捨て。

* 増減は、15/3実績と15/9実績との差

I .16/3期上半期実績 — B/S:負債・純資産の状況 —

単位:百万円

	14/9 実績	15/3 実績	15/9 実績	増減
買掛金	1,496	1,622	1,344	△ 278
短期借入金	1,532	1,897	1,655	△ 242
未払法人税等	89	114	106	△ 8
賞与引当金	281	141	275	134
その他	879	764	649	△ 115
流動負債計	4,279	4,540	4,029	△ 510
長期借入金	1,088	943	857	△ 86
その他	557	521	455	△ 65
固定負債計	1,645	1,464	1,313	△ 151
負債計	5,924	6,004	5,343	△ 661
資本金	1,429	1,429	1,429	0
資本剰余金	1,192	1,192	1,192	0
利益剰余金	6,018	6,395	6,572	177
非支配株主持分	737	900	961	61
その他	12	408	408	0
純資産計	9,391	10,327	10,565	238
負債・純資産合計	15,316	16,331	15,908	△ 422

* 百万円未満切り捨て。

* 増減は、15/3実績と15/9実績との差

単位：百万円

	14/9	15/9	増減
営業活動によるCF	822	585	△ 236
投資活動によるCF	△ 345	△ 479	△ 134
財務活動によるCF	△ 253	△ 506	△ 252
現金及び現金同等物の増減額	204	△ 400	△ 604
現金及び現金同等物の期首残高	1,830	2,316	486
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,034	1,915	△ 118
FCF	476	106	△ 370

税金等調整前四半期純利益

14/9期 651百万円

15/9期 427百万円

* 百万円未満切り捨て。

Ⅱ. 16/3期通期見込

Ⅱ.16/3期通期見込 — P/L:売上・利益の状況 —

▶ ネットシェイプ事業金型部門およびアッセンブリ事業が計画を下回る見込みになったことから10月21日に下方修正。

単位:百万円

	15/3 実績 14/4-15/3	16/3 当初計画 15/4-16/3 (15年5月発表)	16/3 通期予想 15/4-16/3 (15年10月発表)	伸び率
売上高	14,635	15,700	14,400	△ 1.6%
売上総利益	3,388	3,460	2,970	△ 12.4%
販売管理費	2,118	2,060	2,050	△ 3.2%
営業利益	1,269	1,400	920	△ 27.6%
営業外損益	△ 41	50	30	—
経常利益	1,311	1,350	890	△ 32.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	875	890	580	△ 33.8%

* 百万円未満切り捨て。

単位：百万円

事業	15/3 通期実績 14/4-15/3	16/3 当初計画 15/4-16/3 (15年5月発表)	16/3 通期予想 15/4-16/3 (15年10月発表)	伸び率
ネットシェイプ	7,894	7,970	7,400	△ 6.3%
アッセンブリ	4,772	5,600	4,850	1.6%
フィルタ	1,968	2,130	2,150	9.2%
連結計	14,635	15,700	14,400	△ 1.6%

下半期の見込

- ▶ 金型部門：若干の回復を見込むも、引き続き国内市場にばらつきが生じることから当初計画から乖離する見込み。
- ▶ 精密鍛造品部門：上半期とほぼ同水準で推移することを見込む。

下半期の見込

- ▶ モデルチェンジの影響により生産減を想定していた機種 of 減少幅は上半期に引き続き大きくなる見込み。
- ▶ 新規機種も計画未達になる見込み。

下半期の見込

- ▶ 大型海水ストレーナーが増加する見込み。

単位：百万円

	10/3 実績	11/3 実績	12/3 実績	13/3 実績	14/3 実績	15/3 実績	16/3 計画
設備投資額	434	372	627	1,605	1,290	1,313	1,000
減価償却費	557	532	539	602	764	879	1,018

* 百万円未満切り捨て。

	第2四半期末	期 末	年 間
	円 銭	円 銭	円 銭
13年3月期	8.00	8.00	16.00
14年3月期	8.00	10.00 (普通配当8.00) (特別配当2.00)	18.00 (普通配当16.00) (特別配当2.00)
15年3月期	8.00	12.00	20.00
16年3月期(予想)	10.00	10.00	20.00

本日は、ありがとうございました。

株式会社 ニチダイ

NICHIDAI CORPORATION

- ・ 本資料は、当社が現時点で入手可能な情報による判断、仮定等に基づいて作成しております。
- ・ 従いまして、様々な不確定要素が内在しており、結果的には実績が見通しと異なる場合があります。

IR窓口：経営企画室／紺野

Tel : 0774-62-3485

Fax : 0774-65-2301

E-mail : konno@nichidai.co.jp

テーマ	2016年3月期の当初見通し	今期の方向性	下半期の見通し
海外展開の強化	<p>金型部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア地域における売上高が増加する見込み。 ・NDT: 生産品種を拡大し、タイにおける拡販につなげる。 <p>精密鍛造品部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NDTにおけるスクロール鍛造品の生産が増加する見込み。 	<p>金型部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外進出を積極化している日系メーカーに対し、国内外の拠点の連携をとることで対応。 ・タイ NDTにおける生産品種を拡大し、現調化を進める日系メーカーへの対応を強化する。 ・中国、韓国地域 技術力強化を進めるローカルメーカーと協調し、拡販に努める。 <p>精密鍛造品部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外シフトに伴う、既存製品の国内生産減少を海外生産増によりカバーしていく方向。 	<p>金型部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国、韓国向けの拡販を強化。 ・NDTにおける生産品種拡大は、継続的に対応。 <p>精密鍛造品部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NDTにおけるスクロールの生産が増加。前年対比で売上高が増加する見込み。
新規事業技術開発	<p>金型部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蓄積した技術を活用した新規需要開拓を継続。引き続き、中空工法、小型ローター部品の技術開発を推進。 <p>精密鍛造品部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規量産事業の立ち上げを模索。 	<p>金型部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金型部門で行っている技術開発のシーズを国内外の新規金型需要開拓へ活用すべく、技術開発を推進。引き続き、国内における投資を実施。 <p>精密鍛造品部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発中の塑性加工技術を活かした新規事業の立ち上げを目指す。 	<p>今期の方向性の内容を継続。</p>

テーマ	2016年3月期の 当初見通し	今後の方向性	下半期の見通し
QDCの さらなる改善	<ul style="list-style-type: none"> 京田辺工場への移管目的であった物流の整流化、コンタミネーション対策の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種コスト削減策を継続。 たな卸資産削減等、資産効率性を念頭に置いた施策を実施していく予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 国内外で売上高が計画未達になる見込み。 たな卸資産削減、資産効率性、コスト削減は引き続き追求。
海外展開の 強化	<ul style="list-style-type: none"> 新規品の増加により、モデルチェンジの端境期の影響による停滞から脱する見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、NDTをアッセンブリ事業の量産基地として位置づけ、生産拡大を進めていく予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規品は増加しているものの、当初計画は未達になる見通し。
新規事業 技術開発	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、塑性加工技術を活用し構成部品内製化を推し進める予定。 アッセンブリ事業の国内における開発部門を強化し、新規品獲得のバックアップを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> アッセンブリ事業の国内部門をマザー工場として位置づけ、開発部門を強化。 引き続き、塑性加工技術を活用した構成部品内製化や新規品獲得を進めていく予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 内製化策、新規品獲得のための開発を継続。

テーマ	2016年3月期の 当初見通し	今後の方向性	下半期の見通し
海外展開の 強化	<ul style="list-style-type: none"> ・TSMIに関しては、前年より低い水準で推移する見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・TSMを中心に、アジア地域における拡販を狙う。 ・TSMIにおける量産事業の拡大を目指す。 ・アジア以外では、北米地域における拡販を模索。 	<ul style="list-style-type: none"> ・TSMIは、減少はするものの、前年と同水準の売上高で着地する見込み。
新規事業 技術開発	<ul style="list-style-type: none"> ・大型海水ストレーナーの売上高が大きく伸びる見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィルタ事業のコア技術となる拡散接合技術を中心に、新用途の拡大に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型海水ストレーナーは前年対比で大幅に増加する見込み。 ・排ガスフィルターなどの新規需要拡大策を継続。
QDCの さらなる改善	<ul style="list-style-type: none"> ・大型海水ストレーナーの量産が本格化。 ・量産本格化に伴う、生産性向上が課題となる。 ・アッセンブリ事業が使用していた宇治田原工場のスペースはフィルタ事業の生産能力拡大のために利用。 ・国内外で焼結炉を増強し、生産能力をアップさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア地域における量産製品を増加させる方針。 ・量産品の生産性向上策を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外で焼結炉を増設済。 ・量産品のコスト削減策は継続。